

東京旭桜会70回総会特別対談「豊前市長・築上町長に聞く」（抄録）

2025年10月8日、ホテルグランドヒル市ヶ谷
(東京都新宿区)で

出席者／

豊前市長 西元健(46歳、高校50期)

築上町長 新川久三(79歳、高校17期)

コーディネーター／

上田克己(高校15期、東京旭桜会相談役)



(左から新川町長、西元市長、上田相談役)

——今日は、東京旭桜会の70回総会を記念して、築上中部の同窓である豊前市、築上町の両首長に、ふるさとの話をたっぷり聞かせてもらいたいと思います。まず、高校17期の新川さんから、まちづくりにどのように取り組んでこられたかを伺いたい。新川さんは、築上町の初代町長で5期20年間、築上町長をなされ、来年2月に退任を表明しています。

新川 高校は昭和39年の卒業で、3年生の時、本館が火災になってたいへんだったことが何よりも一番の思い出です。大学卒業後に椎田町役場に入り、30年間職員として勤めました。椎田町長に2回目の立候補で当選、椎田町長として4年。そのあと築城(ついき)町との合併で築上町になってから町長を5期20年、あわせると24年になります。



町長になった当時、築城、椎田というと、京築では荒れた町でした。何と

か、“真面目な町”にしたいをモットーにしてきましたが、ようやく、そうなってきました。子供たちを見ると一番わかります。勉学面でも県の平均以上になっています。

インフラ整備は当然やらなければならない問題でした。人口が減少する中、今、小中学校を再編し、小中一貫校にすることに取り組んでいます。中学校は椎田中学校、築城中学校の2校体制ですが、地元と話がまとまった椎田中学校校区では5つの小学校のうち椎田、葛城、小原、西角田の4つの小学校を一緒にして椎田中学校と一体の施設にします。新校舎建設の入札も終え、着工しました。平成9年4月の開校です。もう1つの八津田(はった)小学校は残します。自衛隊築城基地のそばで騒音もあるところですが、築上町では唯一、人口が増えているところで、小学校はすでに建て替えました。

八築(やつき)中学校が前身の築城中学校の校区でも令和13年に小中一貫校にする計画を進めてきましたが、山手のほうの上城井、下城井の地域住民のコンセンサスがなかなか得られず、計画を凍結している状況です。

——次に、高校 50 期の西元豊前市長に伺います。今年3月に市長に当選されたときは 45 歳という若い市長ですが、それまで県議員を4期務め、地域の状況を熟知しており、政治家として経験豊富な方です。豊前市をどうされたいのか、抱負をお聞かせください。

西元 われわれ高校 50 期は今年度の旭桜会の当番期で、8月の総会は皆さまの協力で滞りなく開催できました。本日は、当番期で作っている T シャツを着て参加させて



いただいている点をご容赦ください。

さて、豊前市の現状から話します。皆様が築上中部高校に通っていた頃の豊前市の人口は3万人近辺だった頃が多いと思いますが、現在は2万3千

人になっています。1年間の出生数は新型コロナ禍のあとでは 100 人を切っており、昨年は 90 人台でした。65 歳以上の高齢化率は 40%に届こうとしています。人口減少は日本全体の課題でもあります。築上町も同じですが、豊前市でも子供政策に力を入れています。

これまでの政治は、選挙の関係もあり、高齢者に割と手厚くする傾向があったと思われます。しかし、今、政策はある程度、とがったものにしていかなければなりません。すべてをやることは現実的でなくなっています。集中して、どの世代にどういったものを打っていくのかを考えなければならない岐路にあります。昔からやってきた政策には役割を終えたものがあり、スクラップ・アンド・ビルドが必要なタイミングです。

働く世代、税を納める世代にしっかり力を入れ、その税金が上がることによって高齢者や子供向けの政策を充実していくという、基本的な行政の流れを作っていきたいと思っています。そうした中で学校再編という大きなプロジェクトをスタートさせています。

豊前市には小学校が 10 校、中学校が4校ありますが、これを中学校 1 校、小学校 2 校、それに合岩小学校の敷地につくる義務教育学校という小中一貫校をあわせて 4 校体制にします。充実した教育ができるようにするためです。小学校では1人の先生がすべての教科を教えるのではなく、専門教諭をつけることが可能になります。中学校のクラブ活動では、スポーツだけでなく、今はなくなっている吹奏楽などの文化系クラブ活動も復活させていただきます。

その上で、競争原理を子供のときから働かせていかなければならないと思っています。当然、豊前に残ってほしいのですが、東京で働いたり世界に出て行ったりして、さまざまな挑戦ができるように育てていきたい。築上中部高校の跡地には新設の中学校を作り、旭桜会館の跡地もいただき、築上中部の思いも残しながら、豊前市で生まれてくる子供のための学校にしていきます。

豊前で様々な仕事ができるようにもしたい。現在は2次産業が多いのですが、東京などに出了方が豊前市に帰ってきて多様な働き方ができる土壌を作っていければと考えています。

——築上町の八津田では人口が増えているということですが、やり方や地域の魅力によっては人口増を引き起こすこともできると思います。豊前市や築上町は災害が少な

く気候も温暖です。古代から安全な交通路だった瀬戸内海が九州にぶつかるところにあり、日本でも相対的に豊かな地域でした。そうした魅力があります。北九州空港から椎田駅までは20キロくらいで、羽田と東京駅の間とそれほど変わらないのですね。新川さん、築上町の魅力をお話ください。

新川 魅力は、自然も含めて、昔のままのいいところが残っていることですね。あまり欲を出さず、人口が減っても、「縮充」という形で、町民が充実した生活ができるようにしたいと思っています。いろいろやってきました。

食べ物がおいしいのが魅力です。それから、魅力と言えば、町が買収、整備して公開している旧蔵内邸(炭鉱を営んでいた蔵内家三代の邸宅・庭園。国指定名勝)があります。皆さんが帰省したときには、ぜひ、訪ねて行っていただきたいところです。

企業がなかなか進出してくれなかったのですが、ようやく企業が来てくれるようになりました。大手ファミリーレストランチェーンのジョイフルが北部九州の食品工場・配送センターを築上町に作りました。この人気のハンバーグは築上町のふるさと納税の返礼品にもなっています。

——私も旧蔵内邸にはこの夏も含めて何度か訪れています。見学する価値のあるすばらしい文化財です。ところで、豊前市の小中学校の再編の一貫で、合岩の小中学校が統合してできる義務教育学校ですが、校名は、幕末・明治期にあった私塾の蔵春園の名前をとって豊前蔵春学園としていますね。蔵春園開塾から昨年は200年だったのですが、地域の文化の伝統や歴史が引き継がれるのは非常にいいことだと思います。築上中部高校跡地にできる中学

校の校名はどうなるのですか。

西元 校名は豊前中学校になります。築上中部高校の同窓生の方にはぜひご理解いただきたいのですが、跡地はしっかりと大切にに使わせていただきます。同窓生の築上中部高校への思いを残せていければと思います。東京旭桜会の次期会長の田中さんが、記念誌(東京旭桜会編「築上中部高等学校開校100年記念誌」)に、「“かっこいい”を求めたあの頃」について書いているのを読ませていただきました。そうした気持ちのベースとなるような学校が作れたらと思っています。

——新しい中学校の校名を築上中部記念豊前中学校とするといったアイデアはどうでしょうか。というのも、青豊高校は、築上という名がつく3つの高校が統合したのに、築上という名前が付けられなかったので、われわれは築上という名前を残す校名復活運動をしましたが、実現できなかった。青豊高校の校名では、築上中部の継承校だとの思いがお互いに伝わらず、非常に残念な思いをしているわけです。

西元 新設中学校は前任市長の時からで、実行委員会を作っています。校名を募集したこともありましたが、その中で学校名を決めていった経緯があります。青豊高校についての話は、(統合された)3つの高校名にすべて築上が付いていたということなのかもしれませんが、どうでしょうか。私も中部高校出身なので築上がついたほうがいいなとは思いますが、新たな一歩を進むということを考えると、あえて築上と付けなかったのではないかと考えています。

——ところで旭桜育英会の育英活動について、私は青豊高校にはこれまでずいぶん貢献してきたので、残っている資産は、豊前市、あるいは築上町なども含めて、地元の中学生のいろいろな支援に使ったほうがいいのではと思っています(拍手)。

新川 そうしていただければありがたいですね。

——西元市長、豊前市の魅力をアピールしていただけますか。

西元 豊前市の魅力は一般的に言えば、山があつて海があり、山の幸も海の幸もいろいろあります。そして、街と田舎が混在しているところかと思います。ただ、私たち住んでいる側では、魅力がわからないところもあります。まちづくりでは、よく「若者」「馬鹿者」「よそ者」(が大切)と言われますが、「よそ」からの視点が魅力になっていくと思います。

東京旭桜会の皆様のように一度外に出て行った方の視点で、どういったところを魅力に感じるかを教えていただければありがたい。それが多分、新しい魅力になります。自分たちから押し付けるのではなく、求められるものが魅力になると思います。住んでいるとそこらにあると思っているものが、ほかからみると宝物だったり、財産だったりすることも多々あるのではないのでしょうか。

——人口減少対策や交通手段の維持・道路整備など、自治体で共通の課題もあるでしょう。広域行政について今後、どういう形でやっていくべきだと思っていますか。

新川 築上町ができる前に豊前市、椎田町、築城町で合併研究会を作っていました。椎田の住民投票で合併反対が少し多く、築城と椎田の合併になりました。現在、京築全

体の広域行政の組織は、消防だけになっていますが、京築未来会議という、首長がいろいろと懇談する場があります。共通項目について協議をしながらやっていけば、同じ拠点でできる業務もあると思います。例えば、コンピューターをつなげていけば安く利用できるようになるのでは。また、中津市が提唱した、築上町や豊前市から宇佐市・豊後高田市までの都市圏のビジョンや、北九州市を中心とした広域での都市圏を目指す方向性もあります。連携が広がって、昔の豊前国のような形になるのが一番いいのかもしれない。

西元 自治体の広域連携は今後、必須だと思います、例えば、日産の追浜工場(神奈川県横須賀市)が荏田町に移転してくるといったような話の時に、人口2万2千人の豊前市だけに来てくださいと言っても、「働く人が集まりますか」となります。例えば、築上町、豊前市、吉富町、上毛町、中津市が一緒になれば10万人を超える人口になりますから、面として見ていただければ十分、労働力があります。また工業団地も広域行政なら作りやすくなります。京築全体でならば東京にオフィスを設けることができるかもしれません。

——東京旭桜会ができて70周年という機会に、同窓という学びの縁から、新川町長、西元市長にいろいろとふるさとの魅力や課題を聞くことができました。ありがとうございました。今後も同窓会を通して同郷の交流、絆を深めていければと思います。

(了)